

令和6年度 学校自己評価システムシート（中間評価）

本庄東高等学校附属中学校

目指す学校像	建学の精神 本校は人間の尊さを教え、社会に期待される素地をつくり、人生に望みと喜びを与えるところである 教育方針 一貫校である本校の特色を生かした「自らが考え、判断できる、知と心を備えた聡明な人材」の育成
重点目標	1. 知的好奇心を育て、学習習慣を確立し、確かな学力を身につけさせる。 2. 幅広い視野を持ち、生徒一人一人が、自ら職業観を育てる。 3. 礼儀やマナーを大切に、自他を尊重できる人間関係を促進する。

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

年度目標					中間評価（10月31日現在）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	今後への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> 知的好奇心を高めて、社会の中で有益な思考力・表現力を育む教育を継続し、主体的・対話的で深い学びを更に充実させていく。そして、入試にも対応できるよう授業実践を行う。 確かな学力を身につけさせるため、授業での学習理解度を自らで確認できるようにさせ、授業・家庭学習での目標を明確にし、目的意識を高めさせる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が授業や学習に対して前向きに取り組むことができたか。 学習に対する意識を高めることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 3学年縦断型の授業で、活動的多元的学習であるA I Lを更に発展させる。 各教科における授業での教科横断的な内容を用いる授業の工夫を更に実践する。 学習状況チェックノートの活用を徹底し、生徒の学習活動に対する理解を更に深め、主体的に時間管理ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> A I Lを通して、学習に対する積極的な姿勢や意欲、目的意識を持つことができたか。 生徒が学習状況チェックノートや学習手帳を利用して理解不足の点を明確にすることができるよう指導し、改善することができたか。 家庭学習での時間管理や授業準備がしっかりととなされていたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度のA I Lは年度の後半にかけて実施予定であり、全学年での本格的な活動はこれからである。 学習状況を生徒自身が把握し、教師との連携をこまめに行うことができている。 学習内容に関わるだけでなく、授業準備や宿題等の連絡にもI C T機器が活用されている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> A I Lに関しては、調べたものをまとめるだけではなく、いろいろな角度から課題や問題にアプローチし、議論できる力を育てていきたい。また、それを各教科の授業にも繋げていけるようにする必要がある。 個別での声掛けやI C Tツールを活用することで、学習手帳や学習状況チェックノートの活用を徹底させ、一人一人が生活への意欲を高めることができるようにする。
2	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の目的・目標を踏まえ、中学3年間での流れを意識して、各学年ごとの目標設定を明確にしていく。 民間企業による特別授業を更に有効活用できるように情報の収集を行い、生徒により多くの業種を体験できるようにしていく。 A I Lの活動を通し、入試に対応する力および、社会で必要とされる力を養っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 業種の理解を深める取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> 1・2年生では企業の特別授業を活用し、世の中にはどのような仕事・業種があるのかを知り、自身の進路目標を明確化する。 3年生では学問研究を通して、進路目標達成のための具体的な進路プランを考えていく。 全学年を通して、学園祭の際に職業調べや大学の学問研究学習発表を行い、キャリア教育についてより理解を深めていく。 A I Lを通して、全教科融合学習を実施し、思考力や表現力をつけていく。 	<ul style="list-style-type: none"> より多くの成果を出すために、事前指導と事後指導が適切になされたか。 生徒が目的を十分理解して取り組むことができたか。 積極的で、かつ主体的に取り組むことができたか。 対話的な深い学びができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 全学年で企業特別授業を行い、いろいろな業種について理解を深めることができている。 学園祭の発表に向けたグループ学習では仕事や学問に関する理解を深めただけでなく、ビジネスチャレンジやソーシャルチャレンジといった社会との関連について考えることで、より具体的な将来をイメージすることに繋がった。 今年度のA I Lの活動に向けて、準備を進めているところであり、活動はこれからの予定である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 企業特別授業では、内容を次年度へと引き継ぎ、精査しながら選定する。 学園祭のグループ学習のテーマは、社会との繋がりを意識した内容に整齊されてきている。次年度も継続した上で改善すべき点を検証したい。 A I Lにおいて、どのグループにおいても対話的な学習の実践ができるように工夫していく必要がある。
3	<ul style="list-style-type: none"> 校内外を問わず、更なるモラルやマナーの向上を目指し、周囲からも信頼される生徒を育てる。 学校生活や学校行事を通して、クラス内の団結力や協力の大切さや感性豊かな生徒を育てる。 危険回避がしっかりできる判断力のある生徒を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 信頼される生徒の育成 人間性豊かな生徒の育成 社会性のある生徒の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して定期的に、生徒の現状を把握するために、スクールバスや駅での巡視をする。 必要に応じて、学年集会や全校集会を実施する。 外部講師による注意喚起・啓発をし、危険回避できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に巡視し、生徒の様子を把握し、正しい行動がなされているか確認する。 学校生活のルールが守れているか、挨拶を積極的に行っているか。 交通ルール等の社会的なルールがしっかりと守れているかどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 自転車のルールや列車内のマナーなど、特に低学年の生徒については、これまでと通学方法が大きく異なることもあり、知識や情報が乏しく想定外の動きをしてしまうことがある。そのため日々の注意の徹底、意識付けが重要である。継続的な注意喚起を行いながら、意識付けを行っている。 外部講師による交通安全、防犯非行防止、ネット講話を行った。実演や映像を交えた話を行うことにより、危機意識が高まり、生徒の理解が深まった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> S N Sの利用のしかたやトラブル対策など、まだまだ生徒の意識が希薄であり、人間関係の構築にまで悪影響を及ぼすことも懸念される。生徒がイメージしやすい例を挙げたり、新聞記事等を活用するなど様々な方法から意識づけできるようなホームルームでの指導が重要である。また、家庭の協力、スマートフォンの使用に関するルール決めなどを改めて要請したい。